

三田尻塩田記念産業公園で 中関小4年が塩づくり体験 歴史や昔の人の苦労などを学ぶ



塩分が付いたまき砂を「寄板（よせいた）」で集める作業などを体験した

中関小（亀田浩太郎校長）4年の児童たちが9月10月にかけて、校区内（浜方）の三田尻塩田記念産業公園（浜方）で、歴史と昔の人の努力や苦労を学んだ。

毎年恒例の塩づくり体験で、当時の道具を使った作業に臨んだ。3日は4年1組の32人が訪問。杉山一茂園長が、この地がかつて海だったことや塩作りで栄えたことなどを話した。

体験コーナーでは、塩を含んだ砂に海水をかけて、さらに濃い塩水をとる「沼井（ぬい）」などの説明を受けた。昔ながらの道具を使い、塩粒のついた砂を沼井に入れる作業なども体験。児童たちは、慣れない動きに苦労しながら一生懸命にチャレンジ。フライパンを使った塩だきも見学し、できたてを味見して「からい」と驚く声もあつた。



フライパンでの塩だきも見学した

4年吉田雛乃さん（10）は「砂を運ぶときが重くて大変。水をくんで（沼井に）流すところが面白かった。昔の人は、こんな大変なことを毎日やっていた」と話した。

（杉田雄）

「塩づくり体験」

令和5年10月6日
ほうふ日報